

私たちが見て、聞いて、体験してきました！

高松南地区 武岡 純子さん・桃花さん

純子さん

初めての沖縄で、とても勉強になりました。もずくはサンゴと深い関係があり、サンゴが地球温暖化問題で、白化現象が進行しているのを知りました。サンゴの移植体験では、親子でサンゴに込めたメッセージを書き込みました。コープおきなわの方々のおもてなしに感激し、他のコープの組合員さんとも交流ができて楽しかったです。

最終日の自由行動中に、現地の高校生からインタビューを受け、今回の旅の目的を聞かれたので「もずく基金」のことを伝えたとこ、その活動内容に感謝の言葉をいただきました。この活動を中四国6生協だけでなく、もっと広めていきたいと思いました。

サンゴの苗を作ったよ！

貴重な出会いばかりで、最後は名残惜しくて淋しい気持ちになりました。

桃花さん

シュノーケリングでは、とてもきれいなサンゴがたくさんありました。クマノミやいろいろな魚がエサをあげるとたくさんよってきて、かわいかったです。

大川センター 金山 琴音さん

サンゴがいるからもずくが育つ。 大切なのは、みんなで気にかけること。

「もずくとサンゴの学習会」で、サンゴが成長することにビックリし（生きているんだと実感）、サンゴがいるからもずくも美味しく育つのだと思いました。一人の力ではなく、みんなが気にかけることで海はキレイになり、より良い環境になることを学びました。

恩納村の海をグラスボートで確認し、今のサンゴの深刻な状況を目の当たりにしました。サンゴの白化が進んでいて、毎年来ている参加者の方も「今年はすごい…。心配や。」と言われていました。

この3日間で、生産者の方々のもずくやサンゴに対しての熱い想い、コープおきなわの皆さんの温かい歓迎、たくさんの方達との交流ができ、とても刺激になりました。今回学んだことを少しでも多くの方に広げていき、もずくを食べてもらうだけでなく、“もずく基金”のことも伝えていきたいと思います。

サンゴが2年も3年もかけて育つとは…すくすく育ちますように。

もずくとサンゴの学習会

恩納村漁協青年部の方による「里海づくり学習会」で、サンゴの生態ともずくのことを学びました。

干潟の観察

危険生物(毒を持つ生き物)や絶滅危惧種の海草・生物を観察。34種類を採取し、うち5種類の絶滅危惧種を発見！

グラスボートから覗いた海

再生中のサンゴの棚を見学。サンゴの死につながる白化現象が見られます。今年の白化は深刻な状況で心配です。

もずく加工場見学

もずくに異物が混入していないか確認し、手作業で取り除きます。手間暇のかかる作業に脱帽です。

生産者と組合員さんの交流

生産者さんと交流し、他のコープの組合員さんと想いを共有しました。ビーチでのバーベキューは恩納村の美しい景色が印象的でした。

リサイクルへのご協力 ありがとうございます

組合員さんのご協力でリサイクルは普及、定着し、共同購入・個配や店舗で回収された多くの品目が再資源へと生まれ変わります。今後とも、リサイクルへのご協力をお願いいたします。

2016年度の回収実績 (2016年4月～9月末まで)

牛乳パック	14.58t (約44万パック)	共同購入カタログ、注文用紙	957.15t (毎週配布のカタログ 約160万部)
アルミ缶	15.69t (約78万個)	共同購入シッパの内袋	2.85t (約34万枚)
スチール缶	3.63t (約9万個)	古雑誌、新聞	78.66t
食品トレー(発泡)	9.38t (約144万個)	廃食油	3.53t
食品トレー(透明)	10.83t (約83万個)	ペットボトルのキャップ	2.91t (約97万個)
卵パック	2.94t (約3万パック)		
ペットボトル	24.18t (約40万本)		

CO₂排出量に換算すると
なんと東京ドーム
0.8個分の
CO₂削減に
つながりました！

